

令和4年2月28日
国立大学法人東京大学大学院工学系研究科
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

原子力事故への耐性が高い国産の新型燃料開発で安全性向上を目指す

—事故耐性燃料開発に関するワークショップ開催(ご案内)—

東京大学大学院工学系研究科（研究科長：染谷隆夫）及び国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（理事長：児玉敏雄）原子力基礎工学研究センターは、令和4年3月11日（金）、下記のとおり、「事故耐性燃料開発に関するワークショップ」を開催致します。

- 日 時： 令和4年3月11日（金曜日） 13時00分～16時55分
- 場 所： Web開催 Zoom Webinar
- 主 催： 東京大学大学院工学系研究科
日本原子力研究開発機構原子力基礎工学研究センター
- 対 象： どなたでもご参加いただけます。
- 目 的： 東京電力福島第一原子力発電所では、燃料の溶融が進展して重大事故に至りました。そこで、軽水炉事故時の事象進展を遅らせ、かつ水素発生量を低減することが可能な「事故耐性燃料」の開発が世界的な潮流となっています。カーボンニュートラルへ原子力が確実に貢献していくためには軽水炉の活用が不可欠であり、事故耐性燃料導入の意義は極めて大きいと考えられます。世界の開発状況を鑑みると、米国では2020年代に事故耐性燃料の実用化が予定されています。これらの状況を踏まえ、我が国として総力を結集して、国産の事故耐性燃料の早期実用化を目指し、軽水炉の安全性向上に寄与すべく、関係者が一堂に会するワークショップを国内では初めて開催します。事故耐性燃料の開発状況や技術的なトピックスを共有し、今後の開発の進め方について議論します。
- 概 要： 別添参照

【本件に関する問合せ先】

(ワークショップ内容について)

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
軽水炉研究推進室長 川西 智弘

(報道担当)

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
広報部 報道課長 児玉 猛

国立大学法人東京大学大学院工学系研究科 広報室

事故耐性燃料開発に関する ワークショップ

Workshop on Development of ATF for LWR

- Current status and future challenges in enhancing the nuclear safety -

- 東京大学大学院工学系研究科および日本原子力研究開発機構では、原子力の継続的な安全性向上の観点から、事故耐性燃料(ATF)の開発を進めています。
- OATF開発について、下記の通りワークショップを開催いたします。
一般の方も参加できますので、ふるってご参加ください。

2022年3月11日(金)
13:00~16:55(12:30開場) Web開催

お申込み先

日本原子力研究開発機構原子力基礎工学研究センター

<https://nsec.jaea.go.jp/>



※右側のQRコードからも、お申込み頂けます。

プログラム

»基調講演

13:05 ~ 13:25

『事故耐性燃料開発への期待』

日本原子力学会核燃料部会 宇埜 正美 氏

『事故耐性燃料導入への期待』

経済産業省資源エネルギー庁 中谷 絵里 氏

»講演

13:25 ~ 14:55

『原子力システム研究開発事業での事故耐性燃料の開発』

東京大学大学院工学系研究科 阿部 弘亨 氏

『原子力の安全性向上に資する技術開発事業での事故耐性燃料の開発』

日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究センター 山下 真一郎 氏

『諸外国における事故耐性燃料の開発状況』

東京電力ホールディングス株式会社 山内 晃介 氏

15:05 ~ 16:55

»パネルディスカッション・総合討論

『国研として取組むATF関連基盤技術開発』

日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究センター 山下 真一郎 氏

『TSOとしての事故耐性燃料研究』

日本原子力研究開発機構 安全研究センター 杉山 智之 氏

『事故耐性燃料導入に係る安全要求に関する原子力学会の検討状況』

日本原子力学会標準委員会システム安全専門部会炉心燃料分科会 佐藤 大樹 氏

『総合討論』

日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究センター 逢坂 正彦 氏
(モレーター)